

5 付録

5-4 環境会計(国内)



→WEB

環境会計(国内)

(日本製紙グループESGデータブック2026 P.19)

https://www.nipponpapergroup.com/csr/npg_esgdb2026_19.pdf

5-5 参画イニシアチブ



→WEB

社外からの評価・外部イニシアチブへの参画

(日本製紙グループESGデータブック2026 P.5)

https://www.nipponpapergroup.com/csr/npg_esgdb2026_5.pdf

5-6 依存と影響、リスクおよび機会の特定・評価に用いた手法

依存と影響、リスクおよび機会の特定と評価において参考としたガイダンス文書など

提言、ガイダンス		主な評価領域
TCFDコンソーシアム「気候関連財務情報開示に関するガイダンス3.0」	2022年10月	気候変動
環境省「TCFDを活用した経営戦略立案のススメ Ver3.0」	2023年 3月	気候変動
環境省「サステナビリティ(気候・自然関連)情報開示を活用した経営戦略立案のススメ ～TCFDシナリオ分析と自然関連のリスク・機会を経営に織り込むための分析実践ガイドVer2.0～」	2024年 4月	気候変動、自然関連
国土交通省「TCFD提言における物理的リスク評価の手引き ～気候変動を踏まえた洪水による浸水リスク評価～」	2023年 3月	気候変動
TNFD「自然関連財務情報開示タスクフォースの提言 v1.0」	2023年 9月	自然関連
GCP「ビジネスのためのグローバル循環プロトコル」	2025年11月	資源循環
SSB「サステナビリティ開示テーマ別基準」	2026年 3月	全般および気候変動

インパクト、リスクおよび機会の分析に使用したツール

分析ツール	分析対象範囲	主な評価領域
シナリオ分析 1.5℃シナリオ(RCP2.6) 4℃シナリオ(RCP8.5)	直接操業 上流サプライチェーン(チップ) 下流サプライチェーン(市場)	気候変動
ENCORE	直接操業 上流サプライチェーン(石炭、チップ)	気候変動、生態系、水リスク
WWF Biodiversity Filter 3.0 WWF Water Risk Filter 3.0	直接操業 上流サプライチェーン(チップ)	生態系、水リスク 他
WRI AQUEDUCT4.0	直接操業	水リスク
Water Security Compass	直接操業	水リスク

5-7 TNFDの一般要件の適用

(1) マテリアリティの適用

当社グループは、企業グループ理念の実現および行動指針となるVision(目指す企業像)を掲げ、これを満たすための重要課題(マテリアリティ)を定めています。2026年5月には、当社グループを取り巻く外部環境の変化と、より長期的な視点に立った世界観などを背景として、自然関連課題を含めた重要課題(マテリアリティ)を改定しました。

このマテリアリティは、2035年の世界観を社内で議論、想定し、当社グループが社会に与える影響、社会から受ける影響の両面を重視した「ダブルマテリアリティ・アプローチ」の考え方を採用しています。

この考え方のもと、本レポートでは、中長期的な企業価値に与える影響を念頭におき、当社グループの事業活動が自然に及ぼす影響並びに自然への依存関係も踏まえて、依存、インパクト、リスクおよび機会を整理しています。